



忘れられない芋煮会の日

ジ イハン
姫 一航

今日は、私が日本での生活の中で、特に心に残っている体験についてお話ししたいと思います。それは、日本語教室の先生に誘っていただき、日本の「芋煮会」に参加した秋の一日のことです。この体験を通して、私は日本で暮らしていることを、心から実感することができました。

その日はよく晴れていて、空は高く、空気も澄んでおり、まさに秋らしい穏やかな一日でした。初めて参加する行事だったため少し緊張していましたが、「どんなイベントなのだろう」という期待のほうが大きかったように思います。

最初にみんなで畑に行き、芋掘りをしました。私は芋掘りを簡単な作業だと思っていましたが、実際にやってみると、芋は思ったより深いところにあり、力を入れ方を間違えると途中で折れてしまいます。鍬の扱いにも慣れておらず、周りの人のようにうまく掘ることができませんでした。

そんな私に、農園の方や周りの日本人の方々が優しく声をかけてくれました。「ここから少しずつ掘るといいよ」「急がなくて大丈夫だよ」と、手を止めてやり方を見せながら、丁寧に教えてくれたのです。私の日本語はまだ十分ではなく、すべてを理解できたわけではありませんが、その優しい表情から、私を気遣ってくれていることはしっかりと伝わってきました。

一緒に土に触れ、作業を続けるうちに、少し

ずつ会話も増えていきました。最初の緊張はいつの間にか和らぎ、「同じ仲間」として受け入れてもらえているように感じました。言葉だけでなく、行動を共にすることで人との距離が縮まることを、強く実感しました。

芋掘りの後は、囲炉裏を囲んで料理をしました。掘りたての芋を洗い、皮をむき、鍋で煮込む作業は想像以上に手間がかかりました。私は包丁が苦手です。芋を小さく切りすぎてしまいましたが、周りの人たちは笑いながら自然に手を差し伸べてくれました。その温かい雰囲気は、初対面であることを忘れさせてくれました。

完成した芋料理を口にしたとき、その美味しさに驚きました。素材の旨みだけでなく、「みんなで一緒に作り上げた」という思いが加わり、特別な一皿に感じられました。先生の「大変だった分、美味しく感じるね」という言葉が、今でも強く心に残っています。

この芋煮会を通して、私は日本の生活を知識ではなく、体験として感じることができました。人と一緒に働き、同じものを食べ、自然に言葉を交わす。それは教科書では決して学べない、日本の日常の温かさだったと思います。

帰り道、袋に入った芋を抱えながら、心がじんわりと温くなるのを感じました。この芋煮会は、私にとって日本の温もりを知ることができたこの経験は、かけがえのない一生の思い出となりました。

受賞の喜び



ジ イハン

国 籍 中国
職 種 電子機器組立て
実 習 実 施 者 パナソニック エレクトリックワークス電材三重株式会社
監 理 団 体 ELC事業協同組合

この度、外国人作文コンクールで優秀賞をいただき、大変嬉しく思います。この賞は私一人の力ではなく、会社の指導員の皆様、職場の仲間の皆様、そして日本語教室の先生方の温かいご指導と支えがあったからこそいただくことができました。心より感謝申し上げます。

また、日本で技能実習生として生活する中で、多くの方々に助けていただきました。本当にありがとうございました。今回の受賞だけでなく、日本での経験そのものが私にとってかけがえのない宝物です。これからも学び続け、皆様への感謝の気持ちを忘れず、より良い未来に向かって努力してまいります。

指導員のことば

来日時には、すでに日常会話ができる程度の日本語能力を身につけており、日本のアニメが好きだったことをきっかけに、自然と日本語を学んできたそうです。非常に向上心が高く、来日後も継続して勉強に取り組み、日本語能力試験N1にも合格しました。職場では上司やリーダー、同僚とのコミュニケーションを積極的に図るだけでなく、後輩実習生の指導やサポートにも力を尽くしてくれています。

周囲からの信頼も厚く、職場に欠かせない存在となっています。このような優秀な実習生が今後増えてくれることを期待するとともに、企業としても引き続き成長を支援し、活躍を後押ししていきたいと考えています。

パナソニック エレクトリックワークス電材三重株式会社 本社工場 平野 大作 ・ 包 青花